



interview

YUKIO NINAGAWA

『ガラスの仮面』、 そこに実現していく 夢がある

音楽劇『ガラスの仮面』に取り組むこと。
それは蜷川幸雄の“演劇”の素晴らしさを共有
したいという願いと、さらなる夢の入り口だった。
今回上演に取り組む意欲とともに、
新たな蜷川の夢が明らかとなった。

取材・文 (4-7P) = 徳永京子 (演劇ライター)

photo: 大原狩行 本選会 photo: 宮川舞子

『ガラスの仮面』を手がける意味

僕が『ガラスの仮面』をやるというニュースが流れた途端、どこに行っても「あのエピソードは採り上げるんですか」「あのシーンはどう演出するんですか」と質問されるようになったんですよ。演劇記者はもちろん、そうでない人にもね。そのたびに改めて、この原作がいかに多くの人に愛され、大きな影響を与えているマンガかということを知っています。一方で、『ガラスの仮面』は過去に舞台化もされています(88年。脚本・美内すずえ、演出・坂東玉三郎)し、テレビドラマにもなった(97年)。イメージの世界でも、具体的な前例でも、とにかくライバルが多くて大変な作品なんです(笑)。

そういう作品を手がけることに、もちろん恐怖はあります。ありますが、その恐怖を抑え込む方法も知っている。僕はこれまで、イギリスでシェイクスピア作品を上演したり、ギリシャでギリシャ悲劇をやってきた。自分よりも専門的な知識を持ち、強い思い入れを抱いている人の前で「これが僕のこの作品に対する見解です。いかがですか」と問う経験をしてきているわけで、少しずつ度胸がついてきたんですね。

それに『ガラスの仮面』を上演したい大きな理由が僕にはあります。普段、演劇と疎遠になっている子供と若者に「劇場に行ってみよう」と思ってほしい。ゲームもいいけど、劇場という場所まで行くと、こんなおもしろいものが体感できるんだということを伝えたいんですね。それをわかってもらうには、演劇が出来る過程をストーリーの中で見せることが、非常に有効だと思うんです。つまりバックステージものですね。それと、多くの人が感情移入しやすいよう、いろんな境遇の登場人物が必要です。『ガラスの仮面』はそうした点で打ってつけの題材なんです。それを音楽劇にすれば、さらに間口は広がる。そう考えたから、さまざまな恐怖を押しつけ(笑)、この作品を選ばせてもらいました。

演劇の良さを知って欲しい、そして

この舞台をきっかけに、若者に演劇に興味を持ってほしい。興味を持ったら俳優を志してほしい。そのための劇団をつくりたい。今、そんなことも考えています。さいたまゴールド・シアターで刺激のかつ素晴らしい経験をさせてもらい、考えたんです。こうした出会いが若い世代ともできないだろうか。少し先になるかもしれませんが、若者と劇団をつくり、その劇団とゴールド・シアターで舞台をつくったら、その作品は、そして日本の演劇界はどんなに豊かだろうと思う。それが僕の今の大きな夢なんです。

その第一歩となるわけですから、『ガラスの仮面』はスター主義ではありません。主人公のマヤと亜弓をオーディションで決めました。結果的に、マヤ役にはすでに演劇経験のある大和田美帆さん、亜弓役には経験ゼロの奥村佳恵さんが決めましたが、僕自身、彼女達とこの作品を真っ白い状態から立ち上げていくのが、とても楽しみです。



2330人の応募から今年1月末、14人で行われたオーディション本選会

ガラスの仮面 主要人物紹介

北島マヤ きたじま まや

大和田美帆

月影千草のもと、劇団つきかげの奨学生となり女優への道歩んでいる。何よりも芝居が好きという強い情熱を持つ。

姫川亜弓 ひめかわ あゆみ

奥村佳恵

有名映画監督と大女優・姫川歌子の間に生まれ、子役の頃からその天才的な演技力と美貌で名声を欲しいままにしてきた、演劇界のサラブレッド。

桜小路 優 さくらこうじ ゆう

川久保拓司

姫川亜弓も所属する劇団オンディーヌの若手の実力派俳優。マヤのデビュー当時からマヤを励まし、精神的に支える好青年。

速水真澄 はやみ ますみ

横田栄司

大手芸能プロダクション・大都芸能の若社長。『紅天女』を自らの手で上演することに執念を燃やす一方で、マヤの演劇への情熱に心惹かれていく。

月影千草 つきかげ ちぐさ

夏木マリ

『紅天女』の上演権を持つ往年の大女優。劇団つきかげを主宰するかたわらマヤの才能を一目で見抜き、厳しい訓練を課して育てている。